

おもちゃ図書館からの発信

おもちゃがつなぐ人と人

おもちゃの 図書館

育成ハンドブックNo.71

2010年6月発行

・・・ 楽しく活動を続けるには・・・



目次

はじめに	2
おもちゃ図書館のボランティアの原動力	3
ボランティアグループのあり方を考えてみましょう	4
活動の継続・後継者について	5
たくさんのボランティアに関わっていただくために	6
活動PRについて	8
保護者とのコミュニケーション	9
相談を受けたときには	10
遊ぶ時のかかわり方	11
おもちゃ図書館と子育て支援活動は同じ・・・?	12
手づくりおもちゃ東西南北 【大好きなものゲット】	
香川県観音寺　おもちゃ図書館ちろりん村	14
本の紹介	15

はじめに

今回は、おもちゃ図書館に「育成ハンドブック」で取り上げて欲しい内容は何ですか？というアンケートをとりました中から、皆さんからの要望が多かったものについてまとめました。

おもちゃ図書館活動を楽しく続けていくためのちょっとしたヒントにさせていただけたらと思います。

おもちゃ図書館のボランティアの原動力

ボランティア活動の場が多様になっている現在、関わるボランティアも、さまざまな動機やきっかけでその活動を行っています。おもちゃ図書館ボランティアの場合はどうでしょう。

おもちゃ図書館のボランティアは、間口の広い入りやすい活動です。『障害のある子もない子と一緒におもちゃで遊ぶ』という誰もが経験してきた『あそび』と『障害児・児童』『地域・福祉』がドッキングした活動なので、参加しやすい活動です。

おもちゃ図書館の歴史を紐解くと、『障害児に豊かな遊びの場・その親たちにはほっとくつろげる場・を地域に作る』という、その『想い』が『動機』となり、あつという間におもちゃ図書館活動が全国に広がったのがわかります。もちろんそこにはいち早く全国規模のネットワークが、整備されていたというのも大きな要因ではありますが、この初期の立ち上げ、活動に関わったボランティアの多くが専門家ではなく、主婦層だったという所が大きな特徴です。

また、その中には、障害をもっている子の親、障害のある人、学校の教師、保育士、などさまざまな立場の人々が、ボランティアとして対等に活動しているのもおもちゃ図書館ボランティアのユニークな所です。

そのユニークさにおいては、おもちゃ図書館活動が始まって29年たった今、幼いころおもちゃの図書館で遊んでいた子どもが、高校・大学生・社会人になって今度はボランティアとして参加する機会が増えてきている、という事もあげられます。これは、障害のある子もない子と一緒におもちゃで遊ぶことで実は自然に福祉教育を実践していた表れの一つだと言えます。いや、おまけなのかもしれませんね。

その他にも、利用者からのニーズや『想い』を受け止めて、ボランティアグループが、根幹はぶれる事なく活動の幅を広げたり、作業所を作ったり、自由に『想い』を形にしていった事も、縛りのない活動だからこそです。

さて、おもちゃ図書館ボランティアとは、どんなボランティアなのかと問われると、ボランティア自身が自己選択、自己決定できる活動の中で、のびやかに気負う事無く、地域福祉、子育て支援の活動をごく自然に行っている人たちといえます。

また、開館日においては、直接子ども達と接するボランティアとして、子どもたちの安全への配慮、大げさに言えば命を守りつつ楽しく遊ぶ・見守る、の気配りがボランティアには必要です。

では、おもちゃ図書館のボランティアの原動力は何でしょうか？それは『想い』です。

でも『想い』というのは、どの活動でも同じじゃないかと言われるかもしれません。ただ、おもちゃ図書館のボランティアの『想い』というのは、人間の誰もが持っている本能、それは『母性』『父性』といわれる無償の愛情で、無意識に滲みでてくるもの。目の前の子ども達のために何かしてあげたい！そのためにはどう動けばいいのか？それがおもちゃ図書館のボランティアの、個々の原動力であり、おもちゃ図書館のボランティアの特性です。

ボランティアグループのあり方を考えてみましょう

参加しやすく、魅力的なボランティアグループについて考えてみたいと思います。ここで紹介するのは、一般的なボランティアグループの運営のあり方や活動についての8つの原則です。おもちゃ図書館でも、グループのあり方について考えてみる1つの参考にしてはいかがでしょうか。

1. 前進する組織

いきいきさせるために、新しいチャレンジの機会を逃さない
高い目標を立てる

2. 活動する組織

とにかく活動することを第一にする
集まる時は、なんらかの活動をする
一つの活動から、新しい活動テーマを見つけ出す
楽しく活動できるような企画、環境づくり

3. 開かれた組織

外部の意見を取り入れる
他の組織とのネットワーク、協働する

4. けじめのある組織

会員の参加意思の確認
会議の出欠確認

5. 自立した組織

自分たちは、地域を支えているのだ
活動に必要な財源を確保

6. 仲間を育てる組織

問題を後回しにしない。生じるたびにきちんと処理をする

マニュアル化して、すべての会員が習得
いきいきした組織は、会員を学習漬けにしている

7. 仲間を生かす組織

会員の持ち味を把握して、生かしてあげる
会員の思いを、なるべく早く実現させる

8. 仲間を救う組織

仲間の困りごとにも、応じてあげる
まず、身内の救済に取り組む

一番大切なのは仲間とのコミュニケーションです。参加しやすい魅力的なグループに
していきましょう。

活動の継続・後継者について

ボランティアの募集をしても、入会者がいない。また、イベントにはお手伝いしてく
れても、運営に携わってくれる方がいない。中心になって運営するボランティアが高齡
化し継続が難しい。この様な声が多くきかれます。おもちゃ図書館に限らずひとつの活
動を続ける上でよく直面する問題です。

活動の継続を、どのように考えるかが大切だと思います。

今の活動を、そのまま、次の誰かにつなげるというのが一般的な考え方だと思います。
しかし、当初活動を始める時の熱い思いは、なかなか伝えて行く事は難しいと思います。
また、社会的状況が変化し、同じ思いで続けて行こうとすると、無理が来ることも有る
でしょう。さらに、世代により価値観の違いもあるでしょう。

そこで、活動の継続をどう考えるかが問題です。考えるかではなく、選択するか、か
もしれません。(決心するという意味かもしれません)

そこで、活動を継続していく場合は誰かにつなげるだけではなく

このまま現在のメンバーで続く限り続ける

新しいメンバーを求めるが、いなかったら今のメンバーで続ける
という継続方法も良いと思います。

また、活動の継続を考えるのではなく、次の様な方法もあります。

思い切って閉館し、他の団体におもちゃを託す

活動内容を見直し、新しい活動で続ける

気持ちを新たに活動してみましょう。そこから新しい始まりがあります。

☆今まであったおもちゃ図書館が閉館し、若いお母さん達が新たに立ち上げた所も、いくつかあります。必要は活動を生みだします。

☆活動を、障害のあるお子さんのためだけと考えるのではなく、そこに集う人々のためと考え、集まる親御さんそしてボランティアさんのためでもあるのです。同じメンバーでも、続けて行く意義はおおいにあります。

☆また、活動を見直すために、何を目指すかをはっきりするもの良い方法と思います。得意な分野を、一つ特化してそれを表に出して行きましょう。(あなたのおもちゃ図書館は、何が得意ですか?)

- ・地域の中で、障害のある親子がホッとできる場
- ・おもちゃの手作りで、たくさんの手作りおもちゃを貸し出す
- ・良いおもちゃをそろえて、各おもちゃ図書館、子育てサロンに貸し出す
- ・出前、出張おもちゃ図書館に重点を置く
- ・障害のある子どもも無い子どもも共に集う場として開館する
- ・開館して待つ (お母さんから「今は行かれないけれど、おもちゃ図書館が有ると言う事が安心で、何か相談が有る時行こうと支えになっている」という声も頂いています)

活動には波が有り、活発な時・不活発な時が波のように来ます。きっと新しい波が、またきます。大きい波、小さい波、短い波、長い波、続けることで新しい波に出会えます。

たくさんボランティアに関わっていただくために

おもちゃ図書館の活動の特徴は、誰でもボランティアとして参加できることです。子どもから学生・子育て真最中のお母さん・お父さん・高齢者・障害のある方も趣旨に共感してくださる方は、誰でもかかわることができます。できるだけ地域の人々をまきこんで活動を進めることがよいでしょう。多くの出会いに支えられるおもちゃ図書館になりましょう。

どのように呼びかけたらよいかわからない方は、地域の社会福祉協議会・ボランティアセンター等に相談してみましょう。また、ボランティア募集や活動の様子（内容）を地域の広報紙に掲載したり、地域のPR紙へ掲載する方法もあります。

若いボランティアを受け入れたいと考えているおもちゃ図書館の場合

各地域で、社会福祉協議会が主催で夏休み期間を利用して、中学生から大学生、また、社会人を対象にした、サマーボランティアスクール（名称は、地域により異なる）等おこなっています。その時にボランティア体験の場として、受け入れてみては？

シニアボランティアの活動も期待できます

シニアボランティアとは、人生経験豊富な熟年世代のボランティアです。仕事を退職したり、あるいは子育ての終わった方々に対して積極的に働きかけしていくのもよいでしょう。

地域で活動しているグループとの協働は活動の力になります

活動に必要な情報を得たり、人と人とのつながりをはぐくむ機会にもなります。近隣のおもちゃ図書館や他の団体との協働も視野に入れてゆきましょう。

おもちゃ図書館活動は、初めてボランティア活動に参加しようとする方々にとっても無理なく参加できる活動です。子どもにとって遊びは生きていく力を育む原点です。一緒に遊ぶことでボランティア自身も深い感動と大きな喜びを得ることでしょう。

時には、ボランティアをやりたいという人は来るのだが、なかなか継続してくれないといった悩みも聞きます。ボランティアの人間関係を大切にすることがとても大事になってきます。

楽しく活動を進める為には、開館前や後に自由に話合える場を持ったり、楽しい行事（クリスマス会・お祭り・バザー等）や、ボランティアの質を高めるための研修会・見学会など、皆で交流できるものを一緒に考え、企画していくことも大切になってきます。

おもちゃ図書館活動はグループでの活動です。お互いの違いや存在を認め合い、尊重することから活動は始まってゆきます。

※いつでも相談できるコーディネーターがいると活動はより円滑になりますが、おもちゃの図書館全国連絡会でも多様なニーズに相談対応できるよう毎週木曜日に相談窓口を開いています。是非ご利用ください。

活動PRについて

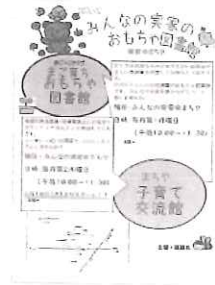
おもちゃ図書館の活動を地域の障害のある子、ない子へ向けて、皆さんはどのように活動紹介をされていますか？地域の広報誌やボランティア情報誌への掲載やチラシ・ポスターの配布と掲示などが多いようです。それぞれ各おもちゃ図書館では、いろいろなアイデアでPR活動をされています。いくつかヒントとなるポイントを紹介します。

チラシ・ポスターの作り方

チラシ・ポスターに必ず盛り込まなければならない情報は、以下の事項です。

1. タイトル（おもちゃ図書館名と活動がわかる内容）
2. 日程（月日、曜日、時間）
3. 場所・会場（住所・地図・電話番号などもあれば親切です。）
4. 参加方法（特に条件などがあれば）

この4つを目立つようにレイアウトすることがポイントですが、できればイラストや写真などを入れるとさらに効果的です。子どもたちやお母さんたちがチラシを手にとってもらえるように、可愛らしく、楽しいものがよいでしょう。



ポイントは、置く・配る・渡す

チラシ・ポスターは作るだけでなく、子どもたちやお母さんたちが集まる場所や施設に置いていただくことがポイントです。いつも利用するさまざまなお店や施設などをお願いをして配置させていただくことも効果的です。

また、配置だけでなく、地域のイベント開催時など多く人が集まる機会などに直接配布することも効果的です。日常的に出合った人へいつでも渡せるように「名刺サイズのPRカード」を持っていることもとても効果的です。

地域のネットワークを活用しよう

地域でさまざまな活動をされている団体やグループへPRの協力をお願いすることも情報が広がります。もし、このようなネットワークを持っていない場合は、地域のボランティアセンターや地域活動支援センターなどへ相談をしてください。

Webサイトを活用しよう

インターネットは、地域を越えて誰でもいつでも情報を伝えることができます。ホームページの制作となると専門的な知識が必要な場合もありますが、今、多くのプロバイダー会社（インターネット接続の会社）が無料のブログ（簡易なホームページ）を提供しています。ボランティアさんの中にインターネットの知識をお持ちの方がいない場合は、地域の生涯学習教室などで「ブログ制作講座」などが多く開催されていますので、そのような講座に参加されるとよいでしょう。

保護者とのコミュニケーション

おもちゃ図書館は原則として子どもだけで来館することはありません。お母さん、お父さん、兄弟姉妹と一緒に複数の人数で来館します。その時、それぞれの人がどんな気持ちで来るのでしょうか。楽しいことがあるかもしれない、すきなおもちゃがあるかもしれない、ああしなさい、こうしなさいではなく自由に振えるかもしれない、もしかするとホッとできる場所かもしれないとか、お母さんお父さん同士でいろいろ話しができるかもしれない等々……。子どもは子どもで、親は親でそれぞれの期待をちょっぴり持って来ることでしょう。この時、おもちゃ図書館のボランティアはその期待を察知し、対応することが大切ではないでしょうか。

子どもとボランティア、親とボランティア、どの場面でも人として1対1の関係、即ち対等の関係を常に持ちながらかわることが基本です。子どもと遊ぶときは子どもの気持ちに添い、お母さん、お父さんと話すときはお母さんお父さんの気持ちに添いながら行動することが大切です。ところがおもちゃ図書館ではボランティアにとって想定外のことしばしば起ります。子どもが突然パニックを起したり、お母さんの予想外の発言にびっくりしたりして、ボランティアがパニックになり軽率な行動や発言をすることはないでしょうか。これは結果としておもちゃ図書館への「期待」を裏切ることになりかねませんので、慎重でなければなりません。おもちゃ図書館のリピーターになるかどうかは、ボランティアの対応が大きく左右します。

お母さんやお父さんの話しに静かに耳を傾けましょう。自然体でくり返し話を聞いているうちに共感が生まれるでしょう。この共感はお母さんお父さんとボランティアの間に信頼関係ができ、お互いに本音で話し会えるようになり、対等、平等にコミュニケーションをとることができるようになるでしょう。

相談を受けたときには・・・

おもちゃ図書館の活動の中では、「相談」を受ける場面にはしばしば出会うことがあります。相手の方はどのような気持ちで話をしているのでしょうか？

話をすすめる中で、相談内容が「情報やネットワーク」の紹介なのか、「心の悩み相談」なのか、また最初の話題は「情報」であってもその奥に「一番話したい」心の悩みを抱えているのかどうか、相手の求めていることを探り、気付くことが必要です。

おもちゃ図書館では、専門的なカウンセリングをするわけではありませんが、「相談を受ける」場面で大切にしたい姿勢や、話の聴き方について学びたいと思います。

「心を傾け、心を込めて聴く人」には、話す人も安心感や信頼感を抱き、心を開いて話ができるようになっていきます。

「聴く」時に必要な3つの態度

- 1 「受容する」 受容とは相手を丸ごと受け入れるということです。たとえ否定的・ネガティブな思考でも、その人自身の状態を丸ごと受け止め、批判や非難はせず、無条件で話を聴きます。
- 2 「共感する」 相手の身になって、自分も体験しているように感じながら聴いてみることです。もちろん「全く同じ」にはなりません、「察する」「分かち合う」「共有する」相手の状況により近づく気持ちが大切です。
- 3 「純粋性」 相手の話に対して、つい批判的な感情になり、まず自分の価値観や通念という「フィルター」がかかってしまいます。

難しいことですが、少しでも自分自身の殻を取り除いて相手の話を聴こうとする姿勢が大切です。

具体的な方法～聴くために～

- ・相手の話を十分に聴く。話の腰を折らない。「プロセス」をゆっくり聴き、こちらからの「結論」提示へと急がないようにします。
- ・表情、動作、視線、声のトーンなどをよく感じ取り「言葉」だけではなく、その言葉の裏にある意味や気持ちを汲み取ります。
- ・自分の価値観、先入観、感覚で決めない。人の話を聴くときには「相手の感情」や「相手の価値観」を尊重します。
- ・評価、説教、審判をせずに「どうしたらいいのか」を一緒に考えます。
- ・適度な「相づち」「うなずき」「柔らかな表情」が必要です。

『主役は話す人（相談する人）』であるということを忘れずに話を聴きましょう。

話す人・相談する人自身の力を信じ、気持ちに寄り添い、共感する。問題解決の方法をこちらが提示するのではなく「誰かと一緒に考え、自分自身で答えにたどり着いた」この気持ちの積み重ねが、相談する人自身の力となっていきます。

遊ぶ時のかかわり方

おもしろいから、楽しいから子どもたちはおもちゃ遊びが好きになるのです。

子どもたちが出してくるサインを受け止めながら一緒に楽しむ姿勢が求められます。一緒に楽しく遊ぶ事は“心の安心を生み育てる”とも言われています。

目から入る刺激は大切です。

何度もやって見せてあげましょう。物をしっかり見る力や、正しく模倣する力もやしません。

誘いこみ 遊びに誘う

触ってみたい・遊んでみたいという気持ちを引き出すために、にこにここと表情豊かな言葉かけも大事です。

手をかしながら

これは教える事ではありません。持っている力で遊びが楽しく出来るように工夫しながら手助けをする事です。その為には子どもの力で十分に取り組めるものから入ってゆくとよいでしょう。思うように遊べなかったり、ガッカリするよりも「やった-」という満足感・達成感を大切にしてください。失敗してしまった時はなぐさめてあげましょう。

共感する事の大切さ

ほめることはとても大切なことです。子どもの気持ちに共感し認め、ほめる事で自分からやってみよう、やってみようという気持ちを引き出すきっかけが作られます。

障害のある子どもの場合には、おもちゃの扱いがわかるまで・楽しさを見つけるまでに時間がかかったりする場合があります。また、飽きた・好き・いや等自分の気持ちを伝える事が難しい時もあります。どんなに重い障害のある子どもも「遊びたい」という気持ちを持っているという思いで、子どもの様子を見ながら、ゆっくり待って、目線を共にしながら遊ぶ喜びを分かちあっていきましょう。お子さんの日頃の様子などを保護者の方から聞くことも大切です。

“この間はあるなに遊んでいたのに今日は？”

と思われる日もあるでしょう。子どもによっては、その日の周りの様子や、季節、天候、気温等によって遊びに入ってゆけない場合もあります。ザワザワした雰囲気になじめない場合はその子どもの様子に合わせた空間作りも必要でしょう。子どもの様子に気を配りながら、子どもにとって負担にならない様に見守ってゆく態度も時には必要です。

また、同じおもちゃでも子どもによって楽しみ方・学ぶものは違うという点も理解しておきましょう。時には思いがけない発見や遊び方と出会うことがあります。

おもちゃ図書館と子育て支援活動は同じ…？

おもちゃ図書館は、当初障害のある子ども達にとっておもちゃで楽しく遊ぶ経験の場であるのと同時に、障害のある子どもをもつ親達にとっても、ほっと一息つく場、情報交換の場、同じ立場の親達と交流する場として始まりました。特に、おもちゃ図書館活動が全国各地に広がった1980年代は障害のある子どもを育てるための情報や遊び、余暇活動プログラムも少ない時代でした。障害のある子どもをもつ親達自身が、一人ぼっちの子育てではなく互いにつながりあうことを求めておもちゃ図書館活動の担い手として、自分の子どものためだけではなく、地域の障害のある子ども達のための場づくりを生き活きと取り組んできました。国際障害者年を契機に障害があることで社会から排除されることなく、地域で共に生活をするノーマライゼーションの考え方が推進され、障害のある子ども達をとりまく環境は、大きく変化してきました。一方、障害のない子ども達にとって、あたりまえのようにあった地域ぐるみの子育て環境が、少子高齢社会、核家族、住環境の変化などにより失われてしまったといっても過言ではない時代となりました。地域の中で一人ぼっちで子育てをせざるを得ない状態は、まるでおもちゃ図書館活動がスタートした時の障害のある子どもをもつ親達と共通しています。だから、今、子育てを支援するための子育てサロンや子育てひろばが、どの地域にもたくさんつくられています。活動の内容が、おもちゃ図書館活動ととても似ているのは当然だと思います。おもちゃ図書館活動そのものが、子育て支援の機能をもっているのですから… また、障害のある子もいない子も一緒に育ちあう場としているおもちゃ図書館も多く、すでに地域の子育て支援の場を担っていると言えます。

では、子育てサロン、広場とおもちゃ図書館が同じであるかと言えば、やはり違う機能を持っていると言えます。

子育て支援の場は、乳幼児の時代のものであり幼稚園や保育園に入園すると卒業をしていきます。それに比べおもちゃ図書館は、障害のある子どもにとって、ずっと青年期までずっと成長を支援する場となっています。また、障害のある子どもの兄弟姉妹にとっても羽根を広げられる場であり、障害のない子ども達にとっても、ボランティアとして参加できる場となっています。地域の中で障害のある子どもとない子どもの一緒に育ちあう場としても大事な役割を担っていると言えるでしょう。

子育てひろばやサロンから、障害のある子ども達のための配慮ができるようにおもちゃ図書館活動を取り入れたいという相談もおもちゃの図書館全国連絡会に寄せられます。

障害のある子ども達や親達にとって、地域の中でおもちゃ図書館も子育てひろば、サロンもどちらも利用できるほうがよいわけで、そのためにも互いに協力連携をしながら進めていきませんか。そしてどの子にも「生まれてきて良かった、幸せだ」と思える人生を！親達にとっても「生まれてくれてありがとう！」と言える子育てができるような地域づくりをしたいと思います。

参考文献-引用

- (1) はじめよう！おもちゃ図書館 おもちゃの図書館全国連絡会
- (2) ボランティア仕掛人マニュアル～住民総ボランティアを目指して～
埼玉県 健康福祉部 社会福祉課

手づくりおもちゃ東西南北【大好きなものゲット】

「おもちゃ図書館ちろりん村」では、毎月第2土曜日のPM2：00～4：00まで支援センター内でおもちゃ図書館を開館しています。スタッフはボランティア5名と地域主任児童委員です。遊びに来る子どもは、おもちゃで遊ぶだけでなく、親子で歌ったり、楽器遊びやゲームなどをしたりもします。手作りおもちゃは、子ども達にも大人気です。

大好きなもの ゼット

魚つりゲームの応用です。子どもの好きな写真、や絵を準備します。

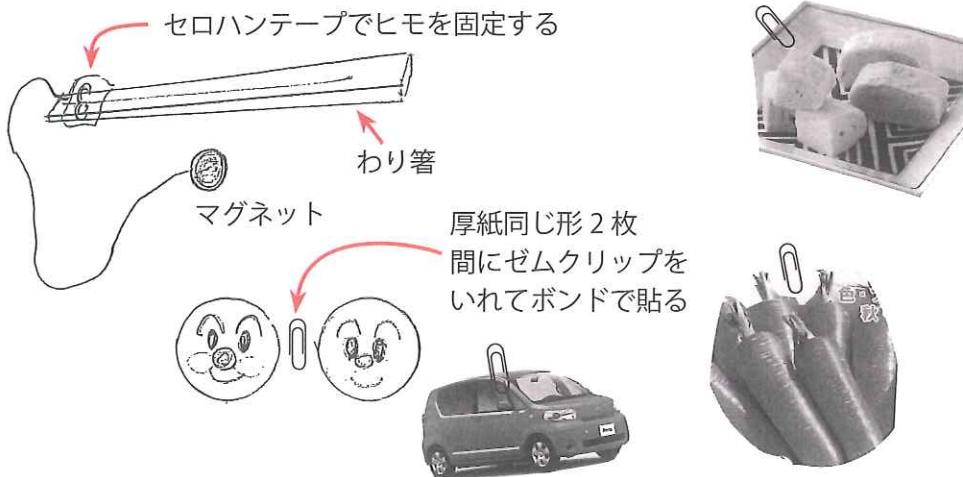
「○○ちゃんの好きなものなあに」…と声を掛けましょう。

「つれるかなあ」と言って釣りのゲームをします。

少し大きくなったら、数字で遊ぶ事もできます。

【材 料】

- ・割り箸 1組
- ・厚紙
- ・ゼムクリップ
- ・マグネット
- ・ヒモ
- ・子どもの好きな写真



香川県観音寺 おもちゃ図書館ちろりん村

ボランティア・NPO・市民活動を応援する情報誌
ネットワーク 306号 2010年5・6月
 特集 **きく、ということ。きこえない声をきく市民活動の今**
 東京ボランティア・市民活動センター 発行／ 600円

私事で恐縮ですが、毎日2人の孫を保育園と学童保育に迎えに行きます。彼らは顔をみた途端に、まるで機関銃のように今日あったことやその時の気持などをしゃべりまくります。相手は2人私は1人。どうやったら2人の話しを同時にゆっくり「聞い」てられるか悩みです。

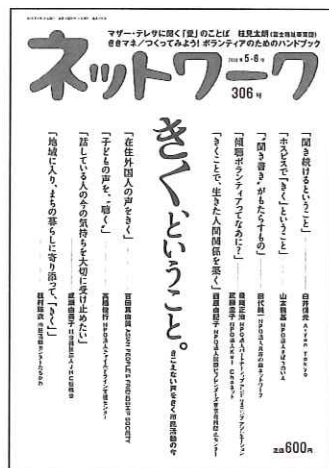
今回のテーマ「きく」に関しておもちゃ図書館活動で最も大切にしている相手の話しを「きく」ということについて、お役に立つと思う情報誌「ネットワーク306号」をご紹介します。

おもちゃ図書館活動は出会が始まりますが……。

初めて来館した親子さんに、あなたは多分満面の笑みとやさしさを込めて「こんにちは」と言うでしょう。次の「〇〇〇〇〇…」と言う言葉でほっとして相手の方が自分の方から話しをしてくれるのだと思います。つまり「きく」活動で始まるわけです。

「ネットワーク 306号」では「きく」ということについてきこえない声をきく市民活動の今。と題して9つの団体からそれぞれの「きく」活動の実践を交えて話す人と心が伝わりあうように真剣に関わることの大切さや、コミュニケーションはツウエイ、「話す」「きく」で1つのセットです、などうーんなるほどというようなことが沢山紹介されています。

東京都 代田おもちゃライブラリー
 清水 洽子



表紙の絵 「なかよしかっぱ」

裏表紙の絵 「かっぱのたき」「かっぱのもり」

熊本県 おもちゃ図書館ゴーゴー 松橋東養護学校幼稚部



育成ハンドブック No.71

発行 財団法人 日本児童福祉協会
〒160-0004 東京都新宿区四谷 2-10-503
編集 おもちゃの図書館全国連絡会
〒103-0028 東京都中央区八重洲1-6-2 八重洲1丁目ビル8階
電話 03 (3272) 0072 FAX 03 (5299) 9011
E-mail : renrakukai@toylib.or.jp URL : <http://www.toylib.or.jp>

※お問合せはおもちゃの図書館全国連絡会へお願いします。